

## 「旧敦賀港線（廃線敷）利活用計画（案）」市民説明会 結果概要

### 1 市民説明会の開催概要

- (1) 日 時 令和8年3月17日（火）19：00～20：00
- (2) 会 場 プラザ萬象 小ホール
- (3) 参加者 21名



### 2 次第

- (1) 開会
- (2) まちづくり推進課長挨拶
- (3) 「旧敦賀港線（廃線敷）利活用計画（案）」について … 配布資料に基づき説明
- (4) 意見交換
- (5) 閉会

### 3 説明要旨

ページ番号	説明内容
P. 1	・ （表紙）課長挨拶
P. 2	・ 利活用コンセプトとして「敦賀の文化・生活を紡ぎ営む、地域のぬくもりに包まれたレールパーク」を掲げ、「自然・環境」「歴史・文化」「生活・自治」を軸に計画している。 ・ 「自然・環境」の視点では、天筒山をはじめとした自然環境を活かしていく。「歴史・文化」の視点では、鉄道をはじめとした歴史・文化的資源の活用を図った空間づくりを行う。「生活・自治」の視点では、行政だけではなく、地域の方々とともに場を作り、日常使いを促進していく。
P. 3	・ 本計画による市内及び周辺地域へにじみ出す効果を示している。 ・ 天筒山の自然と市街地を分断していた廃線敷を開くことで両者を繋ぎ、本計画をきっかけに自然や人の流れを、南北だけではなく東西も含め、市街地全体へ8の字状に創出させていく。

P. 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地の活用では、レールの保全・活用を考えている。考え方として、現状のレールの継承、散策路となるよう飛び石の活用、レールの無い箇所ではレールの復元や平板等の敷設を組み合わせしていく。</li> </ul>
P. 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>レールに並行して、緑地帯や並木を配置し、主動線を作っていく。主動線は最小幅員を2m程度とし、場所によって3m、4mの場所などもある。</li> </ul>
P. 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>主導線としてのレール活用のほか、モビリティなどの活用や、イベントや店舗に活用できるコンテナ等の設置を想定することも検討している。</li> </ul>
P. 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路との交差部は、安全に配慮した計画としていく。その他、まちからの入り口として相応しい設えやサイン計画、列車を待つ場を想起するくつろぎ空間などを計画している。</li> </ul>
P. 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画地は、5つのラインと3つの広場で構成する使い方を検討しており、地形や周辺環境など場所ごとの特性を踏まえて計画していく。</li> </ul>
P. 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>くさまち広場では駅との連携や地域交流機能、まちなか広場では天筒山への眺望や近接する学校などとの連携、うみまち広場では、港を含む歴史文化資源との連携を図っていく。</li> </ul>
P. 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境にも配慮し、周辺の自然環境の保全と調和を図りながら植栽計画を行う。</li> <li>舞崎ラインは緑の玄関口、天筒ラインでは既存の地形や生態系を活かしたナチュラルスティックガーデン、金ヶ崎ラインでは桜並木との調和を図っていく計画としている。</li> <li>天筒山が近接する角鹿ライン、曙ラインでは天筒山の自然環境を活かしたみどりを楽しめる空間にすると同時に隣接する住宅に対する遮蔽機能をもたせるなど、場所ごとに適切な修景を図る。</li> </ul>
P. 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>南北に長いことが特徴である空間において多様な滞留空間の創出にも取り組んでいく。具体的には、レール上の稼働式ベンチや、子どもたちが遊べる空間、レインガーデンやナチュラルスティックガーデン等のレクリエーション空間などを想定している。</li> </ul>
P. 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>5つのラインと3つの広場のアクティブ空間を作ることにより、地域にも相乗効果を生んでいく計画としている。</li> </ul>

P. 13-15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 舞崎ラインの空間イメージ。</li> <li>・ 駅や街と連携し、レンタサイクル利用も想定し交通のハブとして機能させる計画としている。</li> </ul>
P. 16-17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 角鹿ラインの空間イメージ。</li> <li>・ 低木の修景を取り入れ、歩いて楽しめる場としていく。</li> </ul>
P. 18-20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天筒ラインの空間イメージ。</li> <li>・ 別で計画検討を行っている、「氣比の杜整備構想」との関係性が重要となってくる。</li> <li>・ 天筒山へ視界が開けているエリアであり、天筒山への眺望を楽しむことができる空間として計画している。</li> <li>・ 学校帰りの子どもたちの放課後利用も含め、日常利用できる遊び場としても機能させる。</li> </ul>
P. 21-22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 曙ラインの空間イメージ。</li> <li>・ 周辺の住宅との関係性も考慮しながら、木漏れ日の中を散策できるような空間として景観づくりに取り組んでいく。</li> </ul>
P. 23-25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金ヶ崎ラインの空間イメージ。</li> <li>・ 敦賀港や金ヶ崎エリアとの連続的な繋がり、湧水である泉のおしよずを活かした親水空間の創出などを想定した空間づくりを行っていく。</li> </ul>
その他	<p><b>【ワークショップの意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本計画では、ワークショップを2回実施した。</li> <li>・ 1回目のワークショップには、550名程度集まった。参加者へのアンケートでは、計画地において、自然環境にふれることができる場、散歩ができる場、子どもと安心して遊べる場が欲しいなどの意見があった。</li> <li>・ 2回目のワークショップには、40名程度が参加した。（ルール上を歩行する内容であったため安全性を考慮し人数制限を設け、申込時点では120名程度からの応募があった。）参加者へのアンケートでは、コーヒーなどが飲める場や遊具が欲しい、鉄路であることを活かして欲しい、原風景を活かしてほしいなどの意見があった。</li> </ul>

#### 4 意見交換等

意見等	回答
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画地が J R 貨物の所有であった際に、踏切付近に勝手に工作物が作られ、撤去するように看板が出ていたが、現状どのような状況か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市として該当箇所を把握していないことから情報を提供いただきたい。</li> <li>・ 市が J R 貨物から用地を取得するに当たり、占用物件や不法占用物については整理されたうえで引き渡しを受けており、継続して占用されるものについては引き継いでいる。</li> <li>・ 現在のところ同様の事案は確認されていないが、必要に応じて J R 貨物に確認する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 敦賀には、日本海側で最初に鉄道が敷かれた歴史的価値があり、線路があることが重要であると考えていたため、レールを残す計画であり、良かったと思っている。</li> <li>・ 敦賀市民に対してという視点も重要であるが、観光客や鉄道ファンをどう取り入れていくかという視点も含めて、検討を行った方が良いのではないかと考えている。鉄道ファン向けの事例として、北九州の門司港ではトロッコ列車を走らせ、小樽の鉄道博物館でもレールを残している。</li> <li>・ 植栽について、金ヶ崎を中心に植栽が整備される印象であるが、他エリアも含めて四季折々に植栽を愉しめるような整備としていけると良いかと思った。</li> <li>・ 金ヶ崎周辺まちづくり事業において、転車台が設けられるため、レンガ車庫の小型版などを整備できると、より昔の風景が想起できると思った。</li> <li>・ その他、情報発信も重要であると考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いただいた多様な視点を参考に、今後の検討に活かしていきたいと考えている。</li> <li>・ レールは敦賀の鉄道の歴史的財産であり、活かしていきたいと考えている。</li> <li>・ ターゲットについては、継続して議論を行っている。まずは市民にとって活動できる、充実した場となることで、将来的に観光客としても魅力的な場として定着していくと考えている。</li> <li>・ 情報発信や、鉄道関連の取り組みについても、引き続き検討を行う。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>線路を残す計画であるが、線路に遊具など何かが走る計画なのか。</li> <li>植栽の種類について、落葉樹は春や夏は綺麗だが、秋や冬は、落ち葉の手入れも必要で、管理が行き届かないと寂れた雰囲気になることもあるため、植栽の種類についても考慮していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊具については、まだ検討段階ではあるが、次年度以降、どのようなものが良いか、実証実験などで検証していきたいと思っている。</li> <li>植栽の種類についても、引き続き検討していきたいと考えている。また、落ち葉などでも遊べるようにするなど、マイナス要素もポジティブに捉えた取り組みに繋がれば良いとも考えている。管理は市民の方にもご参加いただきたいと、実際に活動していただける方々との繋がりを探しているところである。</li> <li>法令的に鉄道を再度走らせることは厳しいが、可能性として、レールバイクやトロッコを走らせるなど、線路の活用を検討していく。その他、モビリティを走らせるだけではなく、遊歩道の整備や、イベントや店舗のためのコンテナ整備なども検討していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ワクワク、ドキドキする取り組みであった。</li> <li>元々鉄道は駅まで繋がっていたと思うが、駅まで繋がる想定か。駅周辺から廃線跡まで、わかりやすく案内することが重要であると考えている。</li> <li>ランプ小屋や港の駅舎、転車台などの宣伝にも繋がってもらえると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>舞崎ラインから駅までは、新幹線の高架と干渉し繋ぐことはほぼ不可能に近いので、舞崎ラインが駅周辺と連携する取り組みを検討する必要がある。</li> <li>港周辺のまちづくり事業についても、現在調査を行い、今後検討をしていく。転車台についても、PRに繋がるようにしていきたいと考えている。</li> </ul>